



グループ名:
Mai Mashō

創立:
2017年11月24日

代表者:
**ダネラ・タマヨ
アイタナ・レオン**

活動内容:
日本伝統舞踊

ダネラ・タマヨさんへのインタビュー

ダネラさんは、日本大使館の受付で働いています。大使館には日本文化に興味を持った人が多くいますが、ダネラさんもその1人です。

「13歳のとき、偶然に「X Distant」という番組で「千と千尋の神隠し」が放送されたのがきっかけでした。」ダネラさんが日本文化に興味を持ったきっかけです。そこで紹介された伝統に魅了され、当時はアジアの家博物館にある図書館やJapan Video Topicという番組のことを知らなかったダネラさんは、日本文化に関する情報源として積極的にアニメを見ていくようになったのです。彼女は子供の頃から、日本の礼儀作法や生活習慣の基本である「尊敬」「調和」「献身」に対してあこがれも持っていました。



Guayaberaの家、サンクティ・スピリトゥス
(2018)

きっかけは沖縄舞踏団“美”

「グループを結成するために、すべてのリソースが完全にそろうのを待つ必要はない、と気づいたのです」とダネラさんは言います。彼女のグループ“まいましよう”創設の数ヶ月前、日本大使館の招待を受け、沖縄舞踏団“美”が国立劇場で2回の講演を行いました。そのとき、必要な期間をとって準備を行えば、少ない物でもいろいろなことを伝えることができ、無形遺産にふさわしい質の高い結果を示すことができると思った、と彼女は振り返ります。

手に入るリソースをフル活用！

ダネラさんはハバナに住んでいるので、アジアの家の図書館なども利用しますが、必要な衣装や小道具に関する主な情報源はインターネットです。日本専門家のチュートリアル、ドキュメンタリー、インタビューなどから舞踊や必要な手芸の情報を入手します。伝統的な着物は約18mの布を使用するため値段的に高価で、また熱帯気候のキューバではとても暑いです。「予算と現状にあった手工芸品を探すことになりますが、1年くらいかかることもあります。」視覚的エッセンスを失うことなく適応するのは並大抵のことではありません。



工夫を凝らした浴衣、帯、下駄



サンクティ・スピリトゥスで行われた日本文化週間。
京舞「祇園小唄」

“

「私たちのパフォーマンスの成果を一般の人々と共有することで得られる学びは、私たちにより大きなモチベーションを与え、困難があっても前進し続ける原動力となるのです」

モチベーションの源は？

活動を続けていく上で、情報、材料、またリハーサル場所の確保など、さまざまな問題がつきまといます。またリハーサル場所が決まっていないことは、メンバーの参加に柔軟性を与える一方、計画性や一貫性を保つことが難しくなります。それでも、ダネラさんは「私たちのパフォーマンスの成果を一般の人々と共有することで得られる学びは、私たちにより大きなモチベーションを与え、困難があっても前進し続ける原動力となるのです」と力強く語ってくれました。

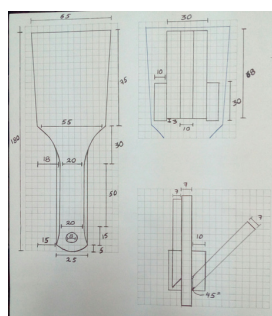
“まいましよう”は、キューバ人に日本の伝統的な舞踏や講演を行うとき、日本文化を知っている人も知らない人も楽しめるように、シンプルで飽きないようなものを用意することに重点を置いています。ダイナミックなリズムに慣れているキューバ人にとって、披露するすべてのテーマやダンスが魅力的とは限りませんが、日本文化は多くの要素が絡み合わさっており、結果として一般の人々にとって興味深い出会いとなっています。

さらなる成長に向けて

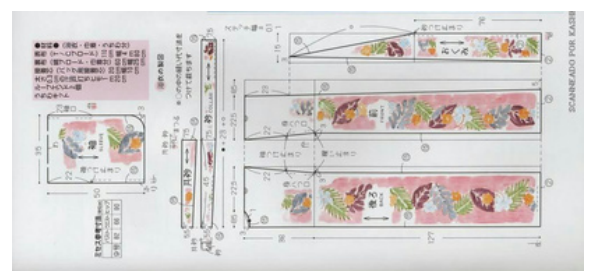
「“まいましよう”としての今後の目標は、より楽しく、よりプロフェッショナルに発信していくために、発表のたびに磨きをかけていくことです。そして地方のさまざまなグループや組織との連携も目指しています」とダネラさんは目を輝かせます。ダネラさん個人としても、京舞の専門的な勉強、着物・浴衣・袴の製作を始めたり、社会性・礼儀・習慣・日本語を磨くなど日々の自己研鑽を続け、ダネラさん、そして彼女のグループはこれからも成長を続けます。



芸術大学で行われた日本文化週間。
御神楽（左）獅子舞（右）



作品を作るためのスケッチ



在キューバ日本国大使館
広報文化班